

私は昭和15年に委託生を拝命し、任官後製鋼工場と実験部で勤務し、終戦をむかえて少佐に進み残務処理に当たったので、正に激動期の6年間を体験したわけである。

去る平成4年5月15日に敗戦で四散した製鋼部員19名が半世紀を経て初めて呉に集合し、物故者を慰霊した後、日新製鋼の

ご好意で今に遺る工場の柱や石垣に再会し、一同往時を偲んで感無量であった。帰途、後髪を引かれる想いで振り返ると古戦場は不死鳥の如く甦り、平和産業として伝統ある製鉄の火を燃し続けているのであった。



製鉄所の立地と地域社会との共存共栄

佐藤 健太郎
(NKK 福山製鉄所)

福山製鉄所の創設

NKK福山製鉄所は、広島県東部の福山市とそれに隣接する岡山県笠岡市との両市に位置する総面積15,200,000㎡・社員9,700人の鉄鋼一貫製鉄所である。

1960年12月に池田内閣の発表した所得倍增計画は、我が国鉄鋼業の高度成長を一段と促進させるものになり、鉄鋼各社は、競って新しい大規模製鉄所の建設計画を打ち出し、NKKも、調査団を編成して北海道から九州まで全国十数カ所の候補地を対象とし、実地調査した。選定においては、生産・設備計画を前提に作成したレイアウトが入るかどうかを第一条件としたが、その他地理的条件・人材等も考慮した総合的な評価を行った。現在の福山製鉄所の地は以下の点で最適と評価された。

①原料・製品の大量輸送が可能な臨海地域にある。②理想的なレイアウトが可能である。③瀬戸内海地区は、気候が温暖であり、また大きな天災が少ない。④優秀な若い人材確保が可能である。⑤NKKとして販売基盤として弱かった近畿、中国、四国、九州の各地区の需要家に対していっそうのサービス向上が可能になる。

以上の社内評価に加え、地元の熱心な誘致により”福山”立地が決定し、1961年10月16日、当社と広島県、福山市、深安町とのあいだで「日本鋼管株式会社新製鉄所に関する協定書」が調印された。協定は、協力して新製鉄所をスムーズに建設、地元産業の発展に寄与することを目的に、設備計画、工場用地の造成、漁業補償、工業用水、鉄道・道路、宅地・住宅等、多方面にわたる取決めが行われた。翌年より埋め立てを、1963年からは建設工事を開始し、1965年より鉄鋼製品の製造を開始した。



埋め立て前の現地

写真は埋め立てが始まる前と現在の製鉄所の鳥瞰図を示したものである。

地域社会と福山製鉄所

創設以来、福山製鉄所は地域社会との融和を考えた事業所運営を心がけてきた。そのために、地域の皆様との交流会・スポーツ大会・情報誌の作成配布・工場見学会等各種の活動を活発に展開してきた。特に近年では、本年5回目を数える「NKKふくやまフェスティバル」を開催しているが、年とともに地域の皆様方に愛される企業祭として定着しつつある。またここ2～3年の新たな活動として、地域の清掃奉仕活動や芸術・文化活動の振興さらには社会福祉活動への参加・協力といった地球環境・社会貢献活動を積極的に展開しているが、その数例についてご紹介する。

社員による道路、河川、海岸の清掃

地域の清掃奉仕活動として、1991年より当所沿い県・市道の清掃を皮切りに、毎年7月「河川愛護月間」の行事としての芦田川清掃への参加、笠岡市の神島地区に生息し国の天然記念物に指定されているカブトガニの産卵場所の海岸清掃への参加をしている。

チャリティコンサートを開催

次に芸術・文化および社会福祉活動への貢献という内容では、1992年より毎年1月に「NKKチャリティコンサート」を開催し、売上金を福山・笠岡両市の社会福祉協議会を通じて両市の福祉施設に寄贈している。

社員のボランティア活動を支援

一方、近隣市町村の福祉施設におけるボランティアニーズを把握し、会社保有の必要資・機材の提供や社員の勤務上の配慮等の施策を展開している。

企業の地球環境・社会貢献問題が大きく取り上げられる昨今、当社は今後とも社会福祉や芸術・文化活動等の振興に取組み、地域社会と共存共栄できる製鉄所を目指している。



現在の福山製鉄所全景